

価値判断力・意思決定力を育成する授業づくり

—価値判断力・意思決定力を発揮する場面設定について考える—

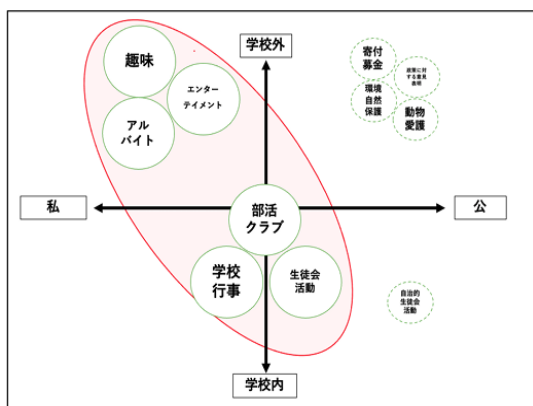
坂井清隆（福岡教育大学）

はじめに

少し前になるが、内閣府(2014)の子ども・若者白書(特集 今を生きる若者の意識～国際比較からみえてくるもの～)では、社会問題への関与や自身の社会参加について、日本の若者の意識は諸外国と比べて相対的に低いことが示された(図表7)。また、日本財団の「18歳意識調査」(2019)でも、「自分で国や社会を変えられると思う」に対して肯定的な回答をした日本の若者は、18.3%と他国と比べて最も低い値となった。

上記の調査を踏まえて国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター研究員である両角氏が日本の若者の社会参加に関する意識の傾向を示したものを図化している。

(<https://www.niye.go.jp/kanri/upload/editor/151/File/10.kousatsu.pdf>)



両角氏は、「日本の若者は学校内における行事や部活、生徒会活動への関心は高いが、

学校外となると比較的私的な事柄への関心が高まるという特徴が見て取れる。また学校内においても、生徒会活動への関心は高いものの、自治的な生徒会活動という公的な要素の強い事柄には関心が低いことから、学校内外にかかわらず、全体として社会参加が私的な事柄に偏る傾向にあるといえる。」と考察している。

これに加えて、問題視したいことは、第一象限に「社会的問題」がないことである。もちろん、「環境自然保護や動物愛護、政策に対する意見表明」の中には、社会的な問題を包含するものも数多く存在することは予想される。このような素材・題材を「社会問題」として授業で取り上げて、その問題について考え、判断し決定する学び方が導入されるだけでも、児童・生徒の社会とのかかわりの質は変わっていくものと予想できる。重要なことは、性急に行動化を促すことではなく、社会的な問題に対する「見方・考え方」働かせて、学習者自身の「価値判断力・意思決定力」を育成していくことである。

価値判断力・意思決定力を育成する授業

これまででも、社会的問題について学習(価値判断・意思決定)した結果を、社会(の諸機関)に提案するという学習形態は多く用いられ、社会科教育実践において活用され

てきた。その先駆的な研究者は小西正雄である。小西は、科学的な社会認識にもとづく合理的な価値判断・意思決定をなしうる子どもたちを育てることをねらいとして「提案する社会科」(1992)を提起した。「提案する社会科」は、価値判断・意思決定能力を備えた「社会的自己認識(社会の中にある自己が分かること)」の育成を目的としている。そのためには、科学的な社会認識と社会的自己認識に基づく価値判断・意思決定の力を発揮する授業が重要であることを主張した。

奇しくも学習指導要領(2017年告示)解説社会編では、学習方法において「選択・判断」が示されており、これはまさに、30年も前に具体的な授業レベルで「価値判断力・意思決定力」の育成を提唱してきた「提案する社会科」の知見が生かされたものとみることができよう。

学習者の価値判断・意思決定を迫る場面

ただ、数多くの価値判断力・意思決定力を育成する、いわゆる提案型社会科の実践がなされてきたが、学習者の価値判断・意思決定を迫る場面設定の詳細については、十分には議論されてきていないのではなかろうか。つまり、学習者の価値判断力・意思決定力を育成しようとするならば、学習者に価値判断・意思決定をさせてみなければ、本当にその「力」が育成できたかわからない。加えて、「価値判断・意思決定させてみる」場面が、安直で薄っぺらいものであれば、価値判断力・意思決定力の「質」は低いままであろう。この議論は、どのような「価値判断力・意思決定力」を育成するのかという評価

にも関わってくる。

では、どのような場面設定(問題設定と価値判断・意思決定の選択肢も含む)をすれば、より高次(「どのような」を敢えてこのような表現にした)の「価値判断力・意思決定力」が育成できるのであろうか。

これまでの実践の検討

【場面設定】なぜ、この場面なのか？

○○を作ろう！

○○の場所を考える ○○の中身を考える

○○を解決するためにどうすべきか？

A or not A AかBか(二項対立)

どれが最善か？

AかBかCか

○○を解決するための優先順位を考える。

1位A 2位C 3位B

場面設定における選択肢は？

学習者に解決策(プラン・プロジェクト)を考えさせる

教師が、事前に選択肢を準備しておく

A案 B案 C案 どれにする？

上記は、かなり単純化した場面や選択肢を提示しているが、実践者によって、その場面設定の仕方や選択肢の作り方など、様々であろう。また、実践者によって「どのような」価値判断力・意思決定力を発揮・育成するのか、にも違いがあろう。

本会では、シンポジウムも兼ねて、ぜひともご参会の実践者の先生方に、ご自身の価値判断・意思決定を発揮させるための場面方略について語って頂き、参加者全体の知見にしていきたいと考えている。